

校長室から  
(H29年度)

# ひがしなら通心

茨木市立東奈良小学校 川上 隆 No. 40

平成30年1月9日(火)発行

## 年神様のパワー ~日本人の知恵から学ぶ~

### 明けましておめでとうございます。

新しい年を迎え、お正月の行事をいろいろ経験した人が多いと思います。

お正月の「正」は、「一に止まる」と書きますが、思いつきで失敗してはいけない、感情のあるがままに行動してはいけない、走り出す前に一度立ち止まって考えてみよう、という意味を持っていると言われています。お正月の行事には、その年の神様を迎え、繁栄と豊作を願い、新しい年が良い年になるようにという願いが込められています。

さて、みなさんは「年神様」という神様を知っていますか？

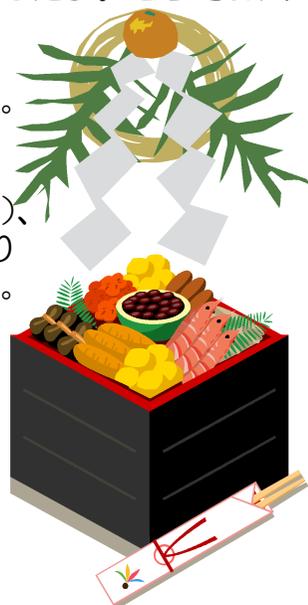
年神様とは、元旦(1月1日の朝)に、新年の幸せを運ぶために、高い山から降りてくる神様のことです。昔の人は祖先の霊が田の神や山の神になり、正月には年神様となって、子孫の繁栄を見守ってくれるのだと考えていました。そのため、たくさんの幸せを授かるために、年神様をお迎えしてお祝いする様々な風習や行事が生まれたのです。その一つが、日本のお正月の行事なのです。

家の玄関に飾る「しめ飾り」も、家の中が「清められましたよ。どうぞお入りください」という年神様への合図です。おせち料理は、もともとは年神様へのお供え料理です。家族の幸せを願う縁起ものの料理として、年神様と一緒に食べる習わしです。だから、お正月に使う箸は、「祝箸(いわいばし)」といって、両方が削られていて、もう一方は神様用です。

また、しめ飾りと同じように五穀豊穰(ごこくほうじょう)、子孫繁栄(しそんはんえい)、家族の安全と健康などの祈りを込めて山の幸、海の幸の両方の産物を入れて作ります。

お雑煮も年神様に備えた餅のご利益(パワー)を頂戴するために食べる料理です。昆布は「喜ぶ」、ごぼうは「細く長く幸せに」……。すべての食べ物や行事に、人々の願いや心遣いが込められているのです。

みなさんが楽しみにしていたお年玉も、年神様に供えた餅を下ろし、子どもや目下の者に分け与えたのが始まりなのだそうです。年神様にお供えしたお餅には年神様の御魂(みたま=パワー)が宿っていて、これをいただくことで1年分の力が授かるとされていたのです。つまり、お年玉をもらったり、お雑煮やおせち料理をいただいたりした人は、大きなパワーを神様からすでにもらっていることとなります。今年1年、そのパワーを是非、自分の夢や目標に向かって努力することに使ってください。



そして、夢や目標を達成するためには、何より健康で安全な年となるよう、一日一日を積み重ね、先人の知恵を生活に生かしていくことが大切です。

## 目標をもって努力できる人に

今年は「成年(いぬどし)」ですが、インドに住む鳥のお話です。

むかしむかし、インドの山奥でとても雪の多いところに、寒苦鳥(かんくちょう)という鳥の夫婦が住んでいました。この鳥はとてもなまけ者で、自分の巣を作らないのです。昼は太陽の光が当たるので、山でも暖かくなります。いろいろな鳥たちは陽気に浮かれて、歌を歌ったり遊び回ったりします。夜になると、他の鳥たちは自分の巣に帰りますが、寒苦鳥は木の枝に止まったままです。雪山なので、夜は昼と打って変わって、厳しい寒さが鳥たちを襲います。寒苦鳥は昼間、楽しく遊びほうけてしまったことをとても後悔します。メスは「寒くて死んでしまうわ」と一晩中、めそめそ泣きます。オスは「夜が明けたら、巣を作ろう」と固く決意し、メスを懸命になだめるのでした。そのような苦しい思いをしながらも、夜が明けて暖かくなると、そのことをすっかり忘れてしまい、また昼間一日、夫婦でいつもと同じように遊び回ります。寒苦鳥は毎日毎日同じことを繰り返してしまい、巣を作ることなく、むなしく一生を終えました。いつも「明日はやろう、明日はやろう」と思い反省するのですが、行動に移せない鳥が寒苦鳥です。

この話から、自分に似ているなあと思った人はいませんか。誰でも寒苦鳥のように「今日はやめて明日にしよう」とか「もう少し後から時間を取ってやろう」というような経験はあると思います。

1月は1年のスタートにあたりますが、それぞれの学年の仕上げをする3学期のスタートでもあります。これまで頑張ってきたことをもっと伸ばそうとする人もいるでしょう。苦手なことをなくそうという人もいるでしょう。また、6年生のように小学校最後のまとめを頑張ろうとか、1年生から5年生では、次の学年のことを考えて努力しようとする人もいると思います。どんな人の心にも「寒苦鳥のようななまける心」はあるものです。しかし、そのなまけ心に打ち勝って、やるべきことをしっかりやっていくことが大切です。自分の目標をしっかり持って取り組んでください。

みなさんの目標に向けての頑張りを期待しています。

## みんなのためのルールブック

「あたりまえだけど、とても大切なこと」 ロン・クラーク 草思社

### ルール24 しかられている人のほうを見ない

だれかが先生にしかられているときは、じろじろ見ないで、下を向くか、前を向いていよう。

●きみがしかられているときに、人にじろじろ見られたら、どんな気持ちになるだろう。いっそう落ちこんだり、頭にきたりするだろう。だから、しかられている人を見るのはやめよう。